

2018 中国シクロクロス国際レース・遠征ご報告

先日 8 月 31 日から 9 月 7 日にわたり弊 Ready Go JAPAN チームの須藤むつみ選手が中国で開催されたシクロクロスレース「千森杯 (Qiansen Trophy)」の全 2 戦に参戦し、無事に帰国をしましたので大変遅くなりましたが、現地取材にお越しいただいた Masakazu Abe 氏に撮影いただいたレース写真とともに御報告申し上げます。



<2018 年・中国レース遠征：概要>

・遠征期間：2018 年 8 月 31 日(金)～2018 年 9 月 7 日(金)

【レーススケジュール】

1st レース：9/2(日)

Aohan Station (Aohan County, Chifeng City) UCI-C1 レース

2nd レース：9/6(木)

Fengfeng Station (Fengfeng District, Handan City) 非 UCI レース

※各レース詳細レポートにつきましては下記のリンクにある RGJ 須藤選手の個人ブログに掲載しましたので、ご覧いただければ幸いです。

・2018-09-03：中国赤峰 Aohan Station シクロクロス UCI・クラス 1 女子エリート

<http://rockmutsumi.hatenablog.com/entry/2018/09/03/005601>

・2018-09-06：中国邯鄲 Fengfeng District, Handan City シクロクロス非 UCI レース・女子エリート

<http://rockmutsumi.hatenablog.com/entry/2018/09/06/230000>

【日本参戦チームメンバー】

・ Men Elite (7名)

小坂 光 (宇都宮ブリッツエンシクロクロスチーム)

竹之内 悠 (Team Toyo Frame)

織田 聖 (弱虫ペダルサイクリングチーム)

斎藤 朋寛 (RIDELIFE GIANT)

小坂 正則 (スワコレーシングチーム)

向山 浩司 (SNEL CYCLOCROSS TEAM)

積田 連 (Team GARNEAU CHAINRING)

・ Women Elite (1名)

須藤 むつみ (Ready Go JAPAN 女子シクロクロスチーム)



・ Staff

諏訪 孝浩、橋本 剛、小島 哲也、小松 聖義

・ Media

阿部 昌一 (Masakazu Abe)

今回の遠征につきまして、RGJ 須藤より御礼メッセージです。



遅くなりましたが、この度は 2018 年の中国シクロクロスレース遠征に男子選手 7 名やスタッフ、メディアスタッフとともに参戦し、おかげ様で大きなトラブルや怪我なく無事帰国しましたことを御報告とともに御礼申し上げます。

今遠征においても、第 1 回目の中国シクロクロス国際レース開催時から日本選抜チームを編成し派遣していた東北シクロクロスオーガナイザーの菅田氏の尽力、そして長く中国遠征に関わっている同行スタッフや選手達の協力とともに、中国遠征先の大会関係者やスタッフの皆様のおかげで全 2 戦を走りきることが出来ました。更に中国初参戦だった選手やスタッフも新しい交流が出来たことと思います。

私としては通算 4 回目の中国遠征ということもあり、大会主催の Song 氏やセクレタリーのジェーンさんなど運営中心メンバーをはじめ、昨年以前の同大会に参戦している他国チーム選手たちと再会を楽しみながら、レースでも切磋琢磨することが出来ました。この海外からの参戦選手たちの多くは、この後に日本で初の UCI クラス 1 として開催される 11 月 18 日に長野県の野辺山で開催されるスーパークロス等にも参戦を予定しているそうなので、また再会し戦えることを楽しみにしています。

今回の遠征には今までと違う状況で準備を進めていました。昨年の 11 月下旬から酷い腰痛、さらに今年の 1 月に左肩を一部、腱板断裂をしていました。その後の 2 月にシクロクロス東京という大事なレースを控えていたので何とか帳尻を合わせて、レースを無事に走り切った後は整形外科と整骨院で治療と指導を受けながら、練習内容をイチから全て見直すこととしました。最初のゴールはもちろん 9 月の中国レース遠征でした。

そのため、途中ゲスト参加で参戦したレース以外では一切レースに出場せず、ジックリと自分の体に向き合って練習を積んできました。肩の怪我の診断名が付いた4月からはロードでの乗り込みを開始し、同時にバイクスキルが低いので体軸を作る体操とともに細かくスキルアップの手順を見直して実践しました。一方でシクロクロスの機材準備も早めにおこない、7月中旬からは整形外科の先生から許可を貰いシクロクロス練習も開始しました。そして、ほぼ予定通りに準備を進め、左肩の動きも整骨院で改善し遠征出発の日を迎えることが出来ました。



本来、大きなレース出場の前に全くレース走行をしていないのは非常に不安だと思います。しかしなぜか今回は今までの遠征前のような不安がなく、むしろスッキリした気持ちで日本を出発できました。それは中国レースに慣れたこともあります。それ以上に不調であったり怪我をしたことで冷静に今までを見直して、自分の身体や機材等の準備を進めてきたことだと思います。

そのクリアな感覚は現地に到着して、レーススタートした時も実感しました。今大会では2戦ともにレース未開催で、誰も走ったこともないコースだったため事前情報がほぼありませんでした。そのため第1戦では、想定外な超級の登坂とダウンヒルがありましたが、事前のシクロクロススキル練習で学び、今の自分で出来るベストの方法を冷静にチョイスして、-1Lapではありますが19位で走り切れました。

第2戦のコースでは、普段の練習コースとして走っている茨城県小貝川の冒険ランドコースを彷彿とさせ、無駄な出力をしないバイクコントロールで丁寧なレース運びを最後まで実践し、トップと同一周回の15位でゴール出来ました。ちなみに両レースともに20位以内にゴール出来たので賞金を獲得しました。両レースを機材等でバックアップいただき無事走りきれたことに、改めてこの場をお借りしてRGJチーム協賛各社・関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。



このような中国のハイレベルなレースに合わせて綿密に計画したトレーニングをおこない、その内容を開示することで今後の日本シクロクロスシーズンの走りと盛り上げに繋がりたいです。今まで海外レース遠征経験が元々ある私だからこそできること、新たに今回の遠征でアップデートしたことを日本のシクロクロスレースに生かしたいから、来年で 50 歳となる私ではありますがチャレンジを続けています。

そんな事に、こんなハイグレードなレースを使うな！という意見もあると思います。しかし私としては、開催時期が日本のシクロクロスシーズンより早く大会運営や受け入れ態勢も整っているのも、エリート登録していれば是非とも同じチャレンジをする日本女子選手が他にもいて欲しい！と考えてます。今回は諸事情で女子については私 1 人のみの参戦となってしまいましたが、来年以降はレベルの高い海外レースにチャレンジしたい、という熱い想いの女子選手に是非とも参戦をしてもらいたいと思います。そして私の経験を今後も発信をしていきたいと思っています。

今後も日本国内のシクロクロスレース普及と発展のために引き続き活動をしていきますので、何卒シクロクロスへご声援のほどよろしくお願いいたします！

最後に主催の Song さん、そして地元レーススタッフの皆様、同行してくれた 2018 中国シクロクロス UCI レース遠征チームの選手・スタッフの皆様には深く感謝いたします。

シクロクロスで日中友好の輪を、そして世界へ！！

※コメントは以上です。



<サンケイスポーツ「サイクリスト！」掲載記事リンク>

・織田聖と竹之内悠が UCI ポイント獲得 中国で開催の「千森杯」シクロクロス第1戦
<https://cyclist.sanspo.com/422045>

・中国・河北省での第2戦は織田聖が9位 「千森杯」シクロクロス国際大会
<https://cyclist.sanspo.com/423205>

<シクロワイアード掲載記事リンク>

・Qiansen Trophy 千森杯 2018 第1ステージ
「中国で開催の UCI シクロクロスレース「千森杯」に日本人8選手が参戦 織田聖が8位に」
<https://www.cyclo wired.jp/news/node/275625>

・Qiansen Trophy 千森杯 2018 第2ステージ
「中国 CX レース第2戦で織田聖が9位入賞 男女ともに欧州勢が力を示す」
<https://www.cyclo wired.jp/news/node/276114>

【使用装備】

フレーム：BOMA シクロクロスバイク・エピス、エピス R（ともに S サイズ）

※エピス、エピス R ともに F ギア 46×36、R ギアも同じく 12-30

タイヤ：IRC チューブレス・シラク、およびシラク MAD

ヘルメット：株式会社オージーケーカブト・ゼナード（カラー：レッド・S/M サイズ）

グローブ：株式会社オージーケーカブト PRG-2

ソックス：武田レグウェア株式会社 R×L ソックス

※第1戦はTBK750R（5本指仕様ソックス）、第2戦はワイルドペーパー（紙糸ソックス）

ボトル・ボトルゲージ：株式会社オージーケーカブト

スキンケア：株式会社アミックグループ・AthleteX（アスリート X）

サプリメント・補給食：株式会社 隼・アスリチューン

ウェア：チャンピオンシステム（レースウェアのほか、アフターレースウェア含め）

※第1戦はシクロクロス用ワンピース、第2戦はタイムトライアル用スピードスーツ

輸送用品：コーワ株式会社・BTB 輸送箱 PRO シリーズ 203、ホイール保護カバー

度付きサングラス調整：オードビー

シューズ：SHIMANO ※ペダル：TIME アタック



© masakazu abe - Geese Optic/鵜光学

